応用日本学コース

・令和５年度学年暦

・授業年間スケジュール

・学位プログラム「応用日本学」

・履修要項

・授業科目表

・標準的履修例

・研究指導プログラム

・学修に関する事項・その他の手続き及び提出書類

・研究指導・授業担当教員

・学術交流協定に基づく外国の大学への留学について

春学期授業開講期間
夏学期授業開講期間
秋学期授業開講期間
冬学期授業開講期間

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
（2023年） 4月							1
	2	3	入学式 4	5	6	7	8
	9	10	①① 11	①① 12	①① 13	①① 14	15
	16	①① 17	②② 18	②② 19	②② 20	②② 21	22
	23	②② 24	③③ 25	③③ 26	③③ 27	③③ 28	昭和の日 いちょう祭準備 29
	30						
5月		いちょう祭 1	いちょう祭 後片付け 2	憲法記念日 3	みどりの日 4	こどもの日 5	6
	7	③③ 8	④④ 9	④④ 10	④④ 11	④④ 12	13
	14	④④ 15	⑤⑤ 16	⑤⑤ 17	⑤⑤ 18	⑤⑤ 19	20
	21	⑤⑤ 22	⑥⑥ 23	⑥⑥ 24	⑥⑥ 25	⑥⑥ 26	27
	28	⑥⑥ 29	⑦⑦ 30	⑦⑦ 31			
6月					⑦⑦ 1	⑦⑦ 2	3
	4	⑦⑦ 5	⑧試⑧ 6	⑧試⑧ 7	⑧試⑧ 8	⑧試⑧ 9	10
	11	⑧試⑧ 12	①⑨ 13	①⑨ 14	①⑨ 15	①⑨ 16	17
	18	①⑨ 19	②⑩ 20	②⑩ 21	②⑩ 22	②⑩ 23	24
	25	②⑩ 26	③⑪ 27	③⑪ 28	③⑪ 29	③⑪ 30	
7月							1
	2	③⑪ 3	④⑫ 4	④⑫ 5	④⑫ 6	④⑫ 7	8
	9	④⑫ 10	⑤⑬ 11	⑤⑬ 12	⑤⑬ 13	⑤⑬ 14	15
	16	海の日 17	⑥⑭ 18	⑥⑭ 19	⑥⑭ 20	⑥⑭ 21	22
	23	⑤⑬ 24	⑦⑮ 25	⑦⑮ 26	⑦⑮ 27	⑦⑮ 28	29
	30	⑥⑭ 31	8月8日は月曜日の振替授業・試験実施日				
8月			⑧試試 1	⑧試試 2	⑧試試 3	⑧試試 4	5
	6	⑦⑮ 7	⑧試試 ※月曜日分 8	集中講義 9	集中講義 10	集中講義 山の日 11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
	31						
9月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	敬老の日 18	19	20	21	22	秋分の日 23
	24	25	26	27	28	29	30

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
（2023年） 10月	1	①① 2	①① 3	①① 4	①① 5	①① 6	7
	8	スポーツの日 9	②② 10	②② 11	②② 12	②② 13	14
	15	②② 16	③③ 17	③③ 18	③③ 19	③③ 20	21
	22	③③ 23	④④ 24	④④ 25	④④ 26	④④ 27	28
	29	④④ 30	⑤⑤ 31				
11月				⑤⑤ 1	大学祭準備 2	文化の日 大学祭 3	大学祭 4
	大学祭 5	大学祭片付け 6	⑥⑥ 7	⑥⑥ 8	⑤⑤ 9	⑤⑤ 10	11
	12	⑤⑤ 13	⑦⑦ 14	⑦⑦ 15	⑥⑥ 16	⑥⑥ 17	18
	19	⑥⑥ 20	⑧試⑧ 21	⑧試⑧ 22	勤労感謝の日 23	⑦⑦ 24	25
	26	⑦⑦ 27	⑦⑦ ※木曜日分 28	⑧試⑧ ※月曜日分 29	⑧試⑧ 30		
		11月28日は木曜日の振替授業実施日 11月29日は月曜日の振替授業・試験実施日					
12月						⑧試⑧ 1	2
	3	①⑨ 4	①⑨ 5	①⑨ 6	①⑨ 7	①⑨ 8	9
	10	②⑩ 11	②⑩ 12	②⑩ 13	②⑩ 14	②⑩ 15	16
	17	③⑪ 18	③⑪ 19	③⑪ 20	③⑪ 21	③⑪ 22	23
	24	④⑫ 25	集中講義 26	集中講義 27	集中講義 28	29	30
	31						
（2024年） 1月		元日 1	2	3	④⑫ 4	④⑫ 5	6
	7	成人の日 8	④⑫ 9	④⑫ 10	⑤⑬ 11	12	13
	14	⑤⑬ 15	⑤⑬ 16	⑤⑬ 17	⑥⑭ 18	⑤⑬ 19	20
	21	⑥⑭ 22	⑥⑭ 23	⑥⑭ 24	⑦⑮ 25	⑥⑭ 26	27
	28	⑦⑮ 29	⑦⑮ 30	⑦⑮ 31			
2月					⑧試試 1	⑦⑮ 2	3
	4	⑧試試 5	⑧試試 6	⑧試試 7	⑧試試 ※金曜日分 8	9	10
	建国記念の日 11	振替休日 12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	天皇誕生日 23	24
	25	26	27	28	29		
	2月8日は金曜日の振替授業・試験実施日						
3月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	春分の日 20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

・・・土・日・祝日及び休業日又は授業未実施期間を示す（緑字は祝日）。

・・・大学行事又は入試準備のための臨時の授業未実施日（予定）を示す。

〇数字　ターム科目の授業日
試　ターム科目の試験日
〇数字　セメスター科目の授業日
試　セメスター科目の試験日

入学式	4月4日
オープンキャンパス	未定

注：8月8日（火）は月曜日の振替授業・試験実施日
11月28日（火）は木曜日の振替授業実施日
11月29日（水）は月曜日の振替授業・試験実施日
2月8日（木）は金曜日の振替授業・試験実施日

セメスター科目（〇数字）	春～夏学期（第1セメスター）	秋～冬学期（第2セメスター）
学期期間	4月1日－9月30日	10月1日－3月31日
履修登録期間	掲示に従うこと。	掲示に従うこと。
履修取消期間	掲示に従うこと。	掲示に従うこと。
集中講義期間	8月9日－11日	12月26日－28日
補講期間	指定なし。	指定なし。
窓口休止		1月12日

2023(令和5)年度　人文学研究科日本学専攻(応用日本学コース)年間スケジュール

(2023年4月1日～2024年3月31日)

学期			月日(曜)	行事等
【春～夏学期】	4月1日(土) 4月10日(月)	春季休業	4月4日(火)	春季入学式
			4月初旬	新入生ガイダンス(4月入学者)
	4月11日(火) 8月11日(金)	春～夏学期 授業期間	4月3日(月)～21日(金)	春～夏学期履修登録
			4月中	［D3⑩］博士論文題目の提出期限
				［M2⑩］修士論文題目の提出期限
			4月29日(土)	いちょう祭準備(授業休講)
			4月30日(日)～5月1日(月)	いちょう祭(授業休講)
			5月2日(火)	いちょう祭後片付け(授業休講)
			6月9日(金)	[D3⑩]博士論文の提出期限
			6月中	[D1⑩]博士論文第1次中間発表会
			7月19日(水)	[M2⑩]修士論文の提出期限
			7月下旬	[D3④]博士論文最終発表会
			8月9日(水)～11日(金)	集中講義期間
	8月12日(土) 9月30日(土)	夏季休業	9月上旬～10月上旬	[M2④]修士論文最終発表会
			9月～10月中	[D2④]博士論文第2次中間発表会
				[M1⑩]修士論文中間発表会
			9月21日(木)～10月12日(木)	秋～冬学期履修登録
			9月終り～10月初め(予定)	新入生ガイダンス(10月入学者)
【秋～冬学期】	10月2日(月) 12月28日(木)	秋～冬学期 授業期間	10月中	[D3④]博士論文題目の提出期限
				[M2④]修士論文題目の提出期限
			11月2日(木)	大学祭準備(授業休講)
			11月3日(金)～5日(日)	大学祭(授業休講)
			11月6日(月)	大学祭後片付け(授業休講)
			12月中	[D1④]博士論文第1次中間発表会
			12月19日(火)	[D3④]博士論文の提出期限
			12月26日(火)～28日(木)	集中講義期間
	12月29日(金) 令和6年 1月3日(水)	冬季休業		
	1月4日(木) 2月8日(木)	秋～冬学期 授業期間	1月中	[D3⑩]博士論文最終発表会
			1月12日(金)	授業休講(大学行事のため)
			1月19日(金)	[M2④]修士論文提出期限
			3月中	[M2⑩]修士論文最終発表会
			3月～4月中	[D2⑩]博士論文第2次中間発表会
				[M1④]修士論文中間発表会

【凡例】[M1④]は博士前期課程1年生・4月入学者を、[D3⑩]は博士後期課程3年生・10月入学者を示す

教育目標

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科の教育目標のもと、次のような能力を身につけた人材を養成することを目的とします。

・比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶとともに、人類の抱えるグローバルな課題に対しても日本研究の最先端の知見に基づいて積極的な発信を行うことのできる人材
・研究成果を国内外に向けて発信し社会実装することのできる高度な俯瞰力、デザイン力及びコミュニケーション力を身につけた人材

比較日本学分野、応用日本語学分野、日本語教育学分野の 3 分野から成る学位プログラム「応用日本学」は、博士前期課程及び博士後期課程を通じて、上記の能力を兼ね備え社会の多様な分野のプロフェッショナルとして活躍し得る人材の育成に取り組みます。

【博士前期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

学位プログラム「応用日本学」においては、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、その観点から日本語・日本文化についての専門的理解を深めるとともに、先端的かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことにより、日本研究の領域から人文学の新たな展開に貢献します。

○高度な教養

日本の言語や文化についての比較や交流の観点からの豊かな知見を基礎としつつ、現代にふさわしい高度な情報リテラシーを培い、また複眼的、俯瞰的に思考する訓練を積むことで、対象を多角的に評価できる力を養います。

○高度な国際性

豊かで論理的な日本語能力、日本の言語や文化についての比較や交流の観点からの豊かな知見を基礎としつつ、豊かなコミュニケーションを実らせる高度な多言語運用能力、そして他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を涵養します。

○高度なデザイン力

3 つの分野の特長を縦横に組み合わせ、日本研究の新たな展開に貢献し、その成果を国内外で発信し社会実装するためのデザイン力を養います。

【博士後期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

学位プログラム「応用日本学」においては、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちにしっかりと位置づけ、その観点から日本語・日本文化についての専門的理解を深めるとともに、先端的かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことにより、日本研究の領域から人文学の新展開を先導します。

○高度な教養

日本の言語・文化・社会・歴史・文学などについての深い学識を基盤として、現代にふさわしい高度

な情報リテラシーを身につけ、また複眼的、俯瞰的に思考する高度な能力を養うことで、対象を多角的に評価し新たな価値を創造できる力を養います。

○高度な国際性

豊かで論理的な日本語能力、日本の言語や文化についての深い学識を基盤として、豊かなコミュニケーションを実らせる高度な多言語運用能力、他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力、さらには自身の研究成果を広く国際発信しグローバルな知的貢献をなしうる能力を涵養します。

○高度なデザイン力

3 つの分野の特長を縦横に組み合わせ、日本研究の新たな地平を切り開き、その成果を国内外で発信し社会実装して、日本研究の立場からイノベーションに貢献するためのデザイン力を養います。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、日本語・日本文化についての深い理解に立ちつつ学際的・国際的視野から新たな学術的成果を生み出しそれを実践的に社会実装するための修練を積み、伝統的かつ最先端の人文学の知見や、日本の言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・国際性・デザイン力に関する下記の能力や学識を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に対し、博士前期課程では修士（日本語・日本文化または学術）、博士後期課程では博士（日本語・日本文化または学術）のいずれかの学位を授与します。

【博士前期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

・明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力を有し、日本学に関わる高度な専門的知識を身につけ、先端的な研究に取り組んでいる。

・広い視野に立って研究を遂行し、学際的視点からみずからの研究成果を位置づけることのできる深い学識を有している。

○高度な教養

・学問全般にわたる幅広い教養と、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な総合的な人文学的教養、また日本を含む世界の言語・文化・社会・歴史等に関する学際的で現代的な教養を有している。

○高度な国際性

・国際的視野に立って研究を遂行し、グローバルな人文学の展開のなかにみずからの専門的な研究成果を位置づけることができるとともに、それを国際的に発信するための言語能力とコミュニケーション・スキルを身につけている。

○高度なデザイン力

・日本学の各分野において、本質的に重要な課題を発見し、データや資料の的確な収集・分析を通して、解決の道筋を構想できる能力を有している。

・国内外のステークホルダーと的確にコミュニケーションを交わし、みずからの研究成果を社会実装する道筋を構想できる俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力を有している。

【博士後期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

・明晰な論述能力を身につけ、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な、高度な専門性と高度な研究能力を有し、先端的で独創的な研究に取り組んでいる。

・広い視野に立って独創的な研究を遂行し、学際的視点からみずからの先端的かつ高度に専門的な研究成果を積極的に位置づけることのできる深い学識を有している。

○高度な教養

・学問全般にわたる高度で幅広い教養と、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な高度で総合的な人文学的教養、また日本を含む世界の言語・文化・社会・歴史等に関する学際的かつ現代的で高度な教養を有している。

○高度な国際性

・国際的視野に立って研究を遂行し、グローバルな人文学の展開のなかにみずからの独創的で高度に専

門的な研究成果を位置づけることができるとともに、それを国際的に発信するための高度な言語能力とコミュニケーション・スキルを身につけている。

○高度なデザイン力

・日本学の各分野において、先行研究を広く踏まえつつ、本質的に重要な課題を発見し、データや資料の的確な収集・分析を通して、独創的かつ先端的なかたちで解決の道筋を構想できる能力を有している。

・国内外のステークホルダーと的確にコミュニケーションを交わし、みずからの高度な研究成果を効果的に社会実装する道筋を構想できる俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、本学位プログラムのディプロマ・ポリシーに掲げられた能力や学識を修得させるため、カリキュラムを以下の方針で編成します。

【博士前期課程】

＜教育課程編成の考え方＞

博士前期課程を通じて、専門教育、教養教育、国際性涵養教育の 3 つの柱に基づいた科目編成を行い、日本学の最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力を養います。

○専門教育：学位プログラム「応用日本学」の「専門教育科目」は、人文学研究科共通の「研究科共通科目」、日本学専攻共通の「専攻共通科目」、各分野が主体となって開講する「分野開講科目」により構成されます。

・「研究科共通科目」：人文学のあらゆる分野に共通の基礎的な知識と研究の方法論、ならびに諸外国語を含め、隣接する分野に関する高度で幅広い知見を培います。特に人文学研究科の必修科目である「人文学基礎（人文学と対話）」では、現代の文化・社会の諸課題に関する最先端の知見を修得させるとともに、問題解決のための思考力を涵養します。

・「専攻共通科目」：英語で日本研究の最先端のコンテンツについて講じる英語講義科目、英語による研究発信力の強化を目的とする英語アカデミック・スキル科目を選択科目として開講することにより、日本学専攻の学生一人ひとりがみずからの必要に応じて俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高められるようにします。

・「分野開講科目」：分野ごとに開講される科目ですが、一部の高度に専門的な科目以外は、他分野の学生も受講することを前提として開講されます。当該分野で必要となる専門知識と研究能力を教授するとともに、専門性に立脚する日本学専攻の学術的基盤の共有をも図ります。

・専門教育の一環として、年度ごとに研究計画の提出を課すなど、主体的かつ計画的に研究を構想・遂行するよう促し、高度な専門性を備えた修士論文の完成へと導きます。また、交換留学、私費留学、海外研修、国内外のインターンシップなどへの参加を積極的にサポートすることにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等の強化を図ります。

○教養教育：人文学研究科の必修科目である「人文学基礎（現代の教養）」を含む「高度教養教育科目」により、専門分野以外の学問分野や領域横断的な分野に関する高度な教養を培います。

○国際性涵養教育：「高度国際性涵養教育科目」により、高度な外国語運用能力、異文化や他者に対する感受性と知識を涵養します。

学位プログラム「応用日本学」のカリキュラムの特徴の１つは、世界中から多様なバックグラウンドを持った優秀な学生を獲得するため、大阪大学で受験する学生を対象とするトラック（実践トラック、4 月入学のみ）とは別に、外国人留学生を対象とし、海外からの受験を可能とするトラック（専修トラック、10 月入学のみ）が設けられている点です。専修トラックの留学生については、実践トラックの学生との修学背景の違いに配慮し、各指導教員が研究指導科目を開講して、きめ細やかな研究指導・履修指導を行い、多様なバックグラウンドを持った学生がともに学びともに高めあえるようカリキュラム上の工夫がなされています。

＜学修内容及び学修方法＞

学位プログラム「応用日本学」では、「分野開講科目」の履修を通じて、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、先端的かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことのできる能力を養います。この「分野開講科目」には、各分野の専門科目に加え、全分野共通の基盤となる横断的基礎科目として、総論科目が設けられており、自らが専門とする分野の関連領域についても学べるカリキュラム編成になっています。

学位プログラム「応用日本学」の「分野開講科目」の授業形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせて、講義、演習などさまざまな形態をとります。いずれの形態の授業においても、学生が資料収集や分析・考察を行い、学生間で、あるいは学生と教員の間で自由闊達な議論がおこなわれるよう工夫されており、研究成果を説得力を持って他者にわかりやすく伝えるデザイン力の育成が図られています。

また日本語・日本文化を発信する国際的な場で活躍するために必要な、海外での研究集会やワークショップの企画・立案・交渉・運営にかかわる実践的能力を育成するため、海外のジョイントキャンパスを拠点として、現地で日本語・日本文化を専攻する大学院生との学術交流会の実施・運営に従事する機会を提供します。

修士論文は、主指導教員と副指導教員による綿密な指導を受けながら作成を進めることにより、学術的完成度を高めます。

以上と並行して、一人ひとりの関心と必要に応じて「専攻共通科目」を履修することにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高めます。

＜学修成果の評価方法＞

授業の成績は、シラバスに記載されている学習目標の達成度を基準として、シラバスに記載されている方法により評価します。

修士論文については、複数の審査員が、テーマ設定の妥当性、研究の枠組や方法の妥当性、論述の明晰さ、資料の選択や解釈の適切性、主張の独自性などを総合的に判断し、評価します。

【博士後期課程】

＜教育課程編成の考え方＞

博士後期課程を通じて、日本学の最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力を養い、学術的な貢献度の大きい博士論文を完成させます。

博士後期課程の科目は、日本学専攻共通の「専攻共通科目」と、各分野が主体となって開講する「分野開講科目」とにより構成されます。

・「専攻共通科目」：英語で日本研究の最先端のコンテンツについて講じる英語講義科目、英語による研究発信力の強化を目的とする英語アカデミック・スキル科目を選択科目として開講することにより、一人ひとりの学生がみずからの必要に応じて俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高められるようにします。

・「分野開講科目」：分野ごとに開講し、当該分野で必要となる高度な専門知識と高度な研究能力を教授します。

・専門教育の一環として、年度ごとに研究計画の提出を課すなど、主体的かつ計画的に研究を構想・遂行するよう促します。また、逐次研究の進捗状況を確認するとともに助言を与え、最終年次には自立した専門家としての独創性を備えた博士論文を完成させられるよう導きます。さらに、交換留学、私費留学、海外研修、国内外のインターンシップなどへの参加を積極的にサポートすることにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等の強化を図ります。

＜学修内容及び学修方法＞

博士論文は、主指導教員と副指導教員による綿密な指導を受けながら作成を進めることにより、学術的完成度を高めます。

授業は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせて開講されます。

＜学修成果の評価方法＞

授業の成績は、シラバスに記載されている学習目標の達成度を基準として、シラバスに記載されている方法により評価します。

博士論文については、当該分野の専門家である複数の審査員が、テーマ設定の妥当性、研究の枠組や方法の選択の妥当性、論述の明晰さ、資料の選択や解釈の適切性、主張の独自性、既存の研究に対する学術的貢献度の高さ、新たな研究分野を切り開こうとする意欲、社会実装への展望などを総合的に判断し、評価します。

履　修　要　項

１．教育方法等

(1) 本研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という）

によって行い、授業科目、授業時間数及びその単位数は、別表Ⅰ又はⅡのとおりとする。

(2) 前期課程授業科目の必修・選択の区分、履修方法は別表Ⅳ（標準的履修例）を参照のこと。

２．指導教員

学生には、その研究分野に応じて指導教員を定める。

(1) 前期課程においては、学生１人につき２人の指導教員を定める。

(2) 後期課程においては、学生１人につき３人の指導教員を定める。

(3) 指導教員のうち１人を主指導教員とし、その他の指導教員を副指導教員とする。

３．履修方法

日本学専攻応用日本学コース

１．博士前期課程

博士前期課程での履修方法は、別表Ⅳ（標準的履修例）を参照のこと。また、修了要件単位数等は以下のとおりである。

① 博士前期課程の学生は、在学期間中に次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」１単位及び日本学専攻の専門教育科目のうちコースごとに別に定める方法により指定する授業科目１２単位以上を含め、「専門教育科目」を計２１単位以上を修得すること。

(1) 研究科規程別表１に定める研究科共通の専門教育科目

(2) 研究科規程別表１に定める日本学専攻の専門教育科目

(3) 研究科規程別表１に定める他の専攻の専門教育科目

② 博士前期課程の学生は、在学期間中に次の授業科目のうちから、「高度国際性涵養教育科目」を計２単位以上修得すること。

(1) 研究科規程別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目

(2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目

(3) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目

(4) 国際交流科目で日本学専攻が認める科目

③ 博士前期課程の学生は、在学期間中に「高度教養教育科目」を１単位以上修得すること。「高度教養教育科目」に該当する科目は、次のとおりである。

次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」１単位を含め、計１単位以上を修得すること。

(1) 研究科規程別表１に定めるすべての高度教養教育科目

(2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目

(3) 大学院横断教育科目で日本学専攻が認める科目

(4) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目

④ 博士前期課程の学生は、在学期間中に上記①～③の要件を満たし、科目区分ごとに次の単位数以上を修得した上で、かつ、総合計３０単位以上を修得すること。履修する科目については、指導教員と相談の上選択するものとする。

・専門教育科目　２１単位以上

・高度国際性涵養教育科目　２単位以上

・高度教養教育科目　１単位以上

⑤ 他の研究科の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修して修得した単位は、１０単位を超えない範囲で、④の単位数に充当することができる。希望者は当該科目を履修しようとする学期の履修登録期間内に、箕面キャンパス２階の教務系事務部（以下「箕面事務部」という。）において所定の手続を行うこと。

２．博士後期課程

博士後期課程の学生は、在学期間中に、次の授業科目のうちから、日本学専攻の専門教育科目のうち、コースの定めるところにより指定する応用日本学コースの「特別研究」４単位以上を含め、計８単位以上を修得すること。履修する科目については、指導教員と相談の上選択するものとする。

(1) 研究科規程別表２に定める研究科共通の専門教育科目

(2) 研究科規程別表２に定める日本学専攻の専門教育科目

(3) 研究科規程別表２に定める他の専攻の専門教育科目

４．履修及び研究計画書の提出

(1) 学生は、毎学期始めに、指導教員の指導等に基づいて、履修授業科目を選択の上、所定の期日までにKOAN で履修登録をしなければならない。

(2) 学生は、各年次の始めに、指導教員の指導等に基づいて、研究計画を立て、所定の期日までに「研究計画書(所定様式)」を作成し、箕面事務部に提出しなければならない。

(3) 学生は、各年次の所定の期日までに「研究概要報告書(所定様式)」を作成し、指導教員の確認を受けなければならない。

(4) 履修登録方法等は、修学上の注意及び諸手続の《学修に関する事項》「１．履修登録について」（59ページ）を参照してください。

５．履修科目の試験

(1) 履修した授業科目の試験は、筆記試験もしくは口頭試験又は研究報告によって行うものとする。

(2) 試験は、春～夏学期末又は秋～冬学期末に行う。ただし、必要があるときは、臨時に行うことがある。

６．単位の認定

(1) 試験に合格した授業科目については、所定の単位を認定する。

(2) 各授業科目の成績の評価は、100点を満点として次の5段階で表し、Ｓ、Ａ、Ｂ及びＣを合格、Ｆを不合格とする。

Ｓ（90点以上） Ａ（80点以上90点未満） Ｂ（70点以上80点未満） Ｃ（60点以上70点未満）

Ｆ（60点未満）

７．修士論文の提出及び最終試験

(1) 修士論文を提出しようとする学生は、１年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得又は修得

見込みで、かつ、必要な研究指導を受けていなければならない。

(2) 修士論文題目は、主指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(3) 最終試験は、修士論文の審査委員会が修士論文及びこれに関連のある授業科目について筆記試験又は口頭試験により行い、その報告に基づいて、研究科教授会が合否を決定する。

(4) 修士論文作成要領等は、修学上の注意及び諸手続の《学修に関する事項》「３．修士論文について」（60ページ）を参照してください。

８．博士論文の提出及び最終試験

(1) 在学中に博士論文を提出しようとする学生は、後期課程に２年以上在学し、所定の授業科目を８単位以上修得又は修得見込みで、必要な研究指導を受け、かつ、次項に定める基礎資格を満たしていなければならない。

(2) 前項の基礎資格は、以下の(イ及び(ロの要件を満たしていることとする。

(イ 公的な学会の機関誌、又はそれに準ずる学会誌に１編以上の論文を掲載し、かつ、公的な学会において、１回以上研究発表していること、又はこれと同等以上と認められる研究業績を有すること。

(ロ 博士論文最終発表会で報告していること。

(3) 博士論文題目は、主指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(4) 博士論文及びその他提出書類は、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(5) 最終試験は、博士論文の審査委員会が博士論文及びこれに関連のある授業科目について筆記試験又は口頭試験により行い、その報告に基づいて、研究科教授会が合否を決定する。

(6) 本研究科の後期課程に３年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた後、退学した者は、退学後３年以内にあっては、前項までの規定に準じて博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

なお、論文審査及び最終試験に合格した場合は、課程博士の学位を取得することができる。

(7) 博士論文の作成要領等については、修学上の注意及び諸手続の《学修に関する事項》「４．博士論文について」（60ページ）を参照してください。

９．他の大学院又は外国の大学院等における授業科目等の履修

(1) 研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院又は外国の大学院の授業科目を１．教育方法等(1)に定める授業科目として履修させることができる。

(2) (1)による授業科目の履修期間は１年とする。ただし、更に期間の延長を希望する者は、１年ごとに期間の延長を願い出て許可を受けなければならない。

(3) (1)により他の大学院又は外国の大学院等において授業科目等の履修をしようとする学生は、所定の手続きを行い、許可を得なければならない。

(4) 修得した単位については、審査の上、３．履修方法①に定める授業科目の単位として認定することができる。

(5) (4)による単位認定は、博士前期課程にあっては３．履修方法④による単位と合わせて15単位を限度とする。

10．入学前の既修得単位の認定

(1) 研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が本研究科入学前に他の大学院において修得した授業科目の単位を審査のうえ、本研究科において修得したものとして認定することができる。

(2) (1)による単位認定を受けようとする学生は、所定の手続きに従い研究科長に願い出るものとする。

(3) (1)による単位認定は、15単位を限度とする。（ただし、９．他の大学院又は外国の大学院等における授業科目等の履修に定める方法により認定された単位と合わせて20単位を超えないものとする）

別表Ⅰ

日本学専攻(応用日本学コース):前期課程　授業科目表

研究科共通

区分	授業科目	単位数 春～夏学期	単位数 秋～冬学期	備考
人文学基礎科目	人文学基礎（人文学と対話）	1		必修科目
	人文学基礎（現代の教養）	1		必修科目
実務研究科目	人文学実務研究	1		
	人文学インターンシップ	1		
デジタルヒューマニティーズ	デジタルヒューマニティーズ基礎			
	デジタルヒューマニティーズ特殊講義			
Euroculture科目	European Philosophy from the Japanese Perspective		2	
	European History from the Japanese Perspective		2	
	European Literature from the Japanese Perspective		2	
	Japanese History in the World		2	
	Japanese Literature in the World		2	
	Japanese Art in the World		2	
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan		2	
基盤科目	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義		2	
	歴史学方法論講義（各論１）	2	2	
	歴史学方法論講義（各論２）	2	2	
言語特別演習	言語特別演習 A・B	2	2	
外国語科目1	アジア・アフリカ諸語Ⅰ-1	1		
	アジア・アフリカ諸語Ⅰ-2		1	
	ヨーロッパ諸語1	1		
	ヨーロッパ諸語2		1	
	古典語Ⅰ	2		
	古典語Ⅱ	2		
	イタリア語	2		
	ロシア語	2		
	英語	1	1	
外国語科目2	アイヌ語	2		
	現代チベット語 A・B	2	2	
	古典チベット語 A・B	2	2	
	カレン語	2		
	シャン語	2		
	オセアニア諸語 A・B	2	2	
	サンスクリット語 A・B	2	2	
	パーリ語 A・B	2	2	
	ベンガル語	2		
	ウィグル語		2	
	カザフ語 A・B	2	2	
	ヘブライ語 A・B	2	2	
	アラム語	2		
	アフロアジア諸語		2	
	西アフリカ諸語 A・B	2	2	
	東・南アフリカ諸語 A・B	2	2	
	古代教会スラブ語 A・B	2	2	
	ウクライナ語 A・B	2	2	
	ポーランド語 A・B	2	2	
	リトアニア語 A・B	2	2	
	エスペラント語	2	2	
	ラテン語 A・B	2	2	
	セルビア語 A・B	2	2	
	チェコ語 A・B	2	2	
	マルタ語 A・B	2	2	
	ブルガリア語 A・B	2	2	

専攻横断

区分	授業科目	単位数 春～夏学期	単位数 秋～冬学期	備考
MLE科目	ヨーロッパの哲学Ⅰ	2		
	ヨーロッパの哲学Ⅱ		2	
	ヨーロッパの哲学Ⅲ	2		
	ヨーロッパの哲学Ⅳ	2		
	ヨーロッパの哲学Ⅴ		2	
	ヨーロッパの哲学Ⅵ		2	
	ヨーロッパの現代Ⅰ	2		
	ヨーロッパの現代Ⅱ		2	

日本学専攻(応用日本学コース)

区分	授業科目	単位数 春～夏学期	単位数 秋～冬学期	備考
専攻共通	Basic Academic Skills for Humanities 1	2		
	Basic Academic Skills for Humanities 2		2	
	Advanced Academic Skills for Humanities 1	2		
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2	
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 1	2		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 2		2	
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1	2		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2	
比較日本学分野	比較日本学研究総論		2	
	比較日本文化研究Ⅰ	2		
	比較日本文化研究Ⅱ		2	
	比較日本文化研究Ⅲ	2		
	比較日本文化研究Ⅳ		2	
	比較日本文化研究Ⅴ	2		
	比較日本文化研究Ⅵ		2	
	比較日本文化研究Ⅶ	2		
	比較日本文化研究Ⅷ		2	
	比較日本学研究指導 A・B	2	2	
応用日本語学分野	応用日本語学研究総論	2		
	日本語学研究Ⅰ	2		
	日本語学研究Ⅱ		2	
	日本語学研究Ⅲ	2		
	日本語学研究Ⅳ		2	
	日本語学研究Ⅴ	2		
	日本語学研究Ⅵ		2	
	日本語学研究Ⅶ	2		
	日本語学研究Ⅷ		2	
	日本語学研究Ⅸ		2	
	言語学研究Ⅰ	2		
	言語学研究Ⅱ		2	
	応用日本語学研究指導 A・B	2	2	
日本語教育学分野	日本語教育学研究総論	2		
	日本語教育学研究Ⅰ		2	
	日本語教育学研究Ⅱ	2		
	日本語教育学研究Ⅲ	2		
	日本語教育学研究Ⅳ		2	
	日本語教育学研究Ⅴ		2	
	日本語教育学研究Ⅵ	2		
	日本語教育学研究Ⅶ		2	
	日本語教育学研究指導 A・B	2	2	

※基盤日本学コースの科目一覧は基盤日本学コースのページにて確認して下さい

別表Ⅱ

日本学専攻(応用日本学コース):後期課程授業科目表

授業科目		単位数		備考
		春～夏学期	秋～冬学期	
専攻科目	比較日本学特別研究 A・B	2	2	
	日本語学特別研究 A・B	2	2	
	対照言語学特別研究 A・B	2	2	
	日本語教育学特別研究 A・B	2	2	

標準的コース別履修例（日本学専攻　応用日本学コース　博士前期課程）

別表Ⅳ

授業科目		単位数 春～夏学期	単位数 秋～冬学期	実践トラック 必修（選択必修）	専修トラック 必修（選択必修）	備考
人文学基礎科目	人文学基礎(人文学と対話)	1		1	1	
	人文学基礎(現代の教養)	1		1	1	
実務研究科目	人文学実務研究	1				
	人文学インターンシップ	1				
デジタルヒューマニティーズ	デジタルヒューマニティーズ基礎		2			
	デジタルヒューマニティーズ特殊講義		1			
Eurocultureー科目	European Philosophy from the Japanese Perspective		2			
	European History from the Japanese Perspective		2			
	European Literature from the Japanese Perspective		2			
	Japanese History in the World		2			
	Japanese Literature in the World		2			
	Japanese Art in the World		2			
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan		2			
基盤科目	ジェンダー･セクシュアリティ研究基礎講義		2			
	歴史学方法論講義(各論１～２)	2	2			
言語特別演習	言語特別演習Ａ～Ｂ	2	2			
外国語科目1	アジア･アフリカ諸語Ｉ－１	1または2	1または2			
	～　英語					
外国語科目2	アイヌ語	2	2			
	～　ブルガリア語Ａ・Ｂ　他					
専攻共通	Basic Academic Skills for Humanities １～２	2	2			○実践トラック 「比較日本学分野」、「応用日本学分野」、「日本語教育学分野」の3分野から各4単位以上を選択履修すること。 ○専修トラック (1) 各分野域の総論科目（「比較日本学研究総論」、「応用日本語学研究総論」、「日本語教育学研究総論」）の中から必ず2科目4単位を選択履修すること。 (2) 研究指導科目（「比較日本学研究指導Ａ・Ｂ」、「応用日本語学研究指導Ａ・Ｂ」、「日本語教育学研究指導Ａ・Ｂ」）を各セメスターごとに履修し、4科目8単位を必修とする。
	Advanced Academic Skills for Humanities １～２	2	2			
	Introduction to Contemporary Japanese Studies １～２	2	2			
	Issues in Contemporary Japanese Studies １～２	2	2			
比較日本学分野	比較日本学研究総論		2	4	2	
	比較日本文化研究Ｉ～Ⅷ	2	2		選択	
	比較日本学研究指導Ａ・Ｂ	2	2		2	
応用日本学分野	応用日本語学研究総論	2		4	2	
	日本語学研究Ｉ～Ⅸ	2	2		選択	
	言語学研究Ｉ～Ⅱ	2	2			
	応用日本語学研究指導Ａ・Ｂ	2	2		2	
日本語教育学分野	日本語教育学研究総論	2		4	2	
	日本語教育学研究Ｉ～Ⅶ	2	2		選択	
	日本語教育学研究指導Ａ・Ｂ	2	2		2	

①専門教育科目	在学中に人文学基礎(人文学と対話)１単位、各コースの必修及び選択必修科目を含め、計２１単位以上修得すること。
②高度国際性涵養教育科目	在学中に大阪大学大学院人文学研究科規程の 別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目、他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目、リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目、 国際交流科目で日本学専攻が認める科目のうち２単位以上修得すること。
③高度教養教育科目	人文学基礎(現代の教養)１単位を修得すること。

総合計	上記①～③の条件を満たし、かつ、総合計３０単位以上を修得すること。

①博士前期課程研究指導プログラム（４月入学者）

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		「修士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	１０月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中
2	春～夏学期	中間発表会	修士論文に関する発表	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３～４月中
		予備審査面接	中間発表を終えた者に対して教員が面接	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３～４月中
		「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		修士論文テーマの決定及び修士論文概要の提出	書式等は指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	６月中
		最終発表会	修士論文のテーマと概要を提出した者が修士論文について最終発表を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月上旬～１０月上旬
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		「修士論文題目」の提出	最終発表会を終えた者が修士論文題目届を提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		「修士論文」の提出	学位申請書、修士論文要旨、修士論文の提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１月９日～１月１９日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中

②博士前期課程研究指導プログラム（１０月入学者）

■新入生(2023年10月入学者)

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		１０月１日～１０月１２日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中

■在学者(2023年4月時点の在学年次に応じ、下記(１)又は(２)を参照のこと)

(1) 1 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		「修士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	４月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中
2	秋～冬学期	中間発表会	修士論文に関する発表	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月～１０月中
		予備審査面接	中間発表を終えた者に対して教員が面接	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月～１０月中
		「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		修士論文テーマの決定及び修士論文概要の提出	書式等は指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	１２月中
		最終発表会	修士論文のテーマと概要を提出した者が修士論文について最終発表を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３月中

(2) 2 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
2	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		「修士論文題目」の提出	最終発表会を終えた者が修士論文題目届を提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		「修士論文」の提出	学位申請書、修士論文要旨、修士論文の提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	７月３日～７月１９日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中

③博士後期課程研究指導プログラム（４月入学者）

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		学術誌等への論文発表又はこれと同等以上の研究業績等		院生→←主指導教員		**３年次の「博士論文題目届」提出時迄に終えていること**
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		「博士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	１０月中
		第１次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		１２月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中
2	春～夏学期	「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		「博士論文のテーマ、論文概要」の提出	博士論文のテーマの決定、論文概要の提出。書式等は主指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	６月中
		予備審査面接	実施計画及び実施済報告書は主指導教員が行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	９月～１０月中
		第２次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月～１０月中
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中
3	春～夏学期	「研究計画書」の提出	３年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		最終発表会	指導教員の指示により発表会を行う(発表及びドラフトを指導教員に提出する)	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		７月下旬
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		「博士論文題目届」の提出	※単位修得退学を予定している者は必ず提出のこと	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中又は翌年の４月中
		「博士論文」等の提出	学位申請書、博士論文、日本語及び外国語要旨、履歴書、研究業績書等~~論文目録~~の提出 ※単位修得退学を希望する者は、学位申請書のみ提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１２月１日～１２月１９日又は翌年の６月１日～６月９日
		「研究概要報告書」の提出	３年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中

④博士後期課程研究指導プログラム（１０月入学者）

■新入生(2023年10月入学者)

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		１０月１日～１０月１２日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		学術誌等への論文発表又はこれと同等以上の研究業績等		院生→←主指導教員		**３年次の「博士論文題目届」提出時迄に終えていること**

■在学者(2023年4月時点の在学年次に応じ、下記(１)、(２)又は（３）を参照のこと)

(1) 1 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		「博士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	４月中
		第１次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		6月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中
2	秋～冬学期	「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		「博士論文のテーマ、論文概要」の提出	博士論文のテーマの決定、論文概要の提出。書式等は主指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	１２月中
		予備審査面接	実施計画及び実施済報告書は主指導教員が行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	３月～４月中
		第２次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３月～４月中

(2) 2 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
2	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月３日～４月２１日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中
3	秋～冬学期	「研究計画書」の提出	３年次の研究計画の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月２１日～１０月１２日
		最終発表会	指導教員の指示により発表会を行う(発表及びドラフトを指導教員に提出する)	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		１月中

(3) 3 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限 又は
3	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		4月3日～ 4月21日
		「博士論文題目届」の提出	※単位修得退学を予定している者は必ず提出のこと	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4月中 又は 10月中
		「博士論文」等の提出	学位申請書、博士論文、日本語及び外国語要旨、履歴書、研究業績書等の提出 ※単位修得退学を希望する者は、学位申請書のみ提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	6月1日～ 6月9日 又は 12月1日～ 12月19日
		「研究概要報告書」の提出	3年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	8月中

≪学修に関する事項≫

１．履修登録について

⑴ 履修登録方法

１．人文学研究科規程に定める履修方法及び指導教員の指導等に基づいて、あらかじめシラバスを参照し、時間割コードを調べておくこと。

２．学務情報システム（KOAN）にログインし、履修登録・登録状況照会メニューから登録する。

３．人文学研究科以外の授業科目を履修する場合は、指導教員の承認を得たのち、当該授業担当教員の承諾を得ておくこと。

４．登録期間中は、登録済の授業科目の変更も可能である。

５．他研究科等の授業科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修し、その単位を修了要件の単位として認定を希望する場合は、「他研究科等授業科目単位認定願」を箕面事務部教務係に提出すること。

※学務情報システム（ＫＯＡＮ）について

大阪大学の学務情報システムは、Knowledge of Osaka university Academic Nucleus の頭文字をとってKOAN と愛称で呼ばれています。

インターネットを通じて授業科目の履修登録や成績照会などができます。

また、休講情報や掲示板サービスもあり、携帯電話サイトも利用できます。

ＫＯＡＮの起動方法は以下のとおりです。

１．Web ブラウザを起動する。

２．https://my.osaka-u.ac.jp/ にアクセスする。

３．全学IT 認証のログイン画面が表示されます。

４．「大阪大学個人 ID」と「パスワード」でログインする。

２．研究指導について

博士前期課程

⑴ 研究指導教員

主指導教員１名、副指導教員１名、計２名の指導教員により研究指導が行われる。

研究計画書に記載された指導教員は、専攻会議で正式に決定される。なお、予定の指導教員と異なる決定があった場合は、あらためて履修計画書を正式決定された指導教員に提出し直すこと。

⑵ 研究指導プログラム

博士前期課程では「博士前期課程研究指導プログラム」（54・55頁参照）のように研究指導が行われる。それぞれの時期に行われる研究指導プログラムを修了しなければ次のプログラムへ進めないので、十分に注意して定められた時期に必ず必要な手続を行い、研究指導を受ける

こと。

博士後期課程

⑴ 研究指導教員

主指導教員１名、副指導教員２名、計３名の指導教員により研究指導が行われる。

⑵ 研究指導プログラム

博士後期課程では「博士後期課程研究指導プログラム」（56・57頁参照 ）のように研究指導が行われる。それぞれの時期に行われる研究指導プログラムを修了しなければ次のプログラムへ進めないので、十分に注意して定められた時期に必ず必要な手続を行い、研究指導を受けること。

３．修士論文について

①修士論文題目届

⑴ 最終発表会を終えた者は、修士論文を提出しようとする年の指定された日までに主指導教員の承認を得た「修士論文題目届」を提出しなければならない。この届出がなされていない場合は、修士論文を作成しても受理されないので、特に注意すること。

⑵ 箕面事務部配付の所定用紙により、主指導教員の印を得たうえで箕面事務部へ提出すること。

②学位申請書

⑴ 箕面事務部配付の所定用紙を使用すること。

⑵ 修士論文提出時に１部提出すること。

③修士論文

⑴ Ａ４判の用紙を使用し、縦方向、横書きで作成すること。ただし、特段の必要があり、指導教員が必要と認めた場合は、縦書きで作成することも可とする。

⑵ 使用言語、執筆枚数、記入要領は主指導教員の指示に従うこと。

⑶ 正１部、副３部の計４部を指定された日までに箕面事務部に提出すること。表紙及び製本方法は箕面事務部の指示に従うこと。

④修士論文の要旨

⑴ 日本語要旨・外国語要旨をつけること。日本語要旨は2000字程度、外国語要旨は500語程度で、書式は本文に準ずる。

⑵ 正１部、副３部の計４部提出すること。

４．博士論文について

①博士論文題目届

⑴ 最終発表会を終えた者は、指定された日までに主指導教員の承認を得た「博士論文題目届」を提出しなければならない。この届出がなされていない場合は、博士論文を作成しても受理されないので、特に注意すること。

⑵ 所定用紙により、主指導教員の印を得たうえで箕面事務部に提出すること。
②博士論文
⑴ Ａ４判の紙を使用し、縦方向、横書きで作成すること。ただし、特段の必要があり、指導教員が必要と認めた場合は、縦書きで作成することも可とする。
⑵ 使用言語、執筆枚数は主指導教員の指示に従うこと。
外国語：30行／１頁（１行65ストロークを目安とする。）
日本語：30行／１頁（１行40字を目安とする。）
※縦書きとする場合
・Ａ４判の紙を使用し、縦方向で作成する。
・各頁は２段組みとし、各段30字・23行を目安とする。
⑶ 日本語要旨・外国語要旨を付けること。日本語要旨は4000字程度、外国語要旨は1000語程度で、書式は本文に準ずる。（ただし、論文が縦書きの場合も、要旨については横書きで作成すること。）
⑷ その他、適宜主指導教員の指示に従うこと。
⑸ 正１部、副５部の計６部を提出すること。表紙及び製本方法は箕面事務部の指示に従うこと。
③その他の提出書類
⑴ 学位申請書(所定の様式) １部
⑵ 履歴書(所定の様式) ６部
⑶ 研究業績書(所定の様式) ６部
⑷ 博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載）確認書（所定の様式）１部
※本研究科において、全文の公表の可否又は保留とする判断を行う。

５．授業科目の試験における留意事項について

人文学研究科日本学専攻応用日本学コースの授業科目の試験等において次の不正行為を行った者については、教育課程上の処分として、原則当該学期に履修した人文学研究科日本学専攻応用日本学コースの全授業科目の成績を無効とするほか、大阪大学大学院学則の規定に基づき懲戒処分を行うことがあるので、留意すること。
⑴ 持込を許可されたテキスト、ノート、辞書等以外のものを使用した場合
⑵ カンニングペーパーの使用等カンニングとみなされる行為を行った場合
⑶ 代人受験とみなされる行為を行った場合
⑷ その他試験監督者の指示に従わない場合
⑸ 授業担当教員が成績評価の対象として求めるレポート等の提出物において、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配布物（公表・未公表を問わない。）の一部又は全部を剽窃した場合

６．修士論文及び博士論文作成に際しての留意事項について

修士論文及び博士論文（以下この項において「学位論文」という。）の作成に際して、他人の文章の一部又は全部を引用する場合は、必ずその出典を明記し、自分の書いた文章でないことを明示する必要がある。

提出された学位論文において出典の記載がない場合は、盗用する意図の有無にかかわらず剽窃とみなし、教育課程上の処分として、原則提出された論文を不合格とするほか、大阪大学大学院学則の規定に基づき懲戒処分を行うことがあるので、留意すること。

≪その他の手続き及び提出書類≫

１．証明書類の発行について

⑴ 学生証

新入生は、入学手続時に、写真(３か月以内に撮影したもので上半身、無背景、脱帽、26×32cm)１枚を持参し、箕面事務部で、学生証の交付申請をすること。

なお、次のことに注意すること。

(ｱ) 学生証は常に携帯し、本学職員の請求を受けたときはいつでもこれを提示すること。

(ｲ) 修了、退学、除籍となったとき又は有効期限が経過したときは直ちに学生証を返却すること。

(ｳ) 標準年限（前期課程は２年、後期課程は３年）を超えて在学する者については、新年度４月に、有効期限が１年間延長された学生証が発行されるので、古い学生証と交換で受け取ること。

(ｴ) 汚損、紛失などの理由により、学生証の再発行を受けようとする者は、学生センターで再発行申請をすること。

(ｵ) 姓名等、記載事項に変更が生じたときは、直ちに申し出ること。

⑵ 通学証明書

通学証明書は、大学院の正規課程に在学する学生に限り交付する。

通学定期乗車券発行控に通学区間を記入したものが通学証明書の代用となる。

通学定期乗車券を購入の際は、各社の指定する「購入申し込み書」に記入のうえ、「学生証」、「通学定期乗車券発行控」と以前使用の定期券を添えて申し込むこと。

⑶ 学校学生生徒旅客運賃割引証、在学証明書、成績証明書、前期課程修了見込み証明書

学生証を利用して証明書自動発行機により窓口を経ずに自動発行される。

学割証の発行枚数は、旅客鉄道株式会社及び文部科学省の定めるところにより、年間１人当たり10枚を限度として発行される。

修了証明書及び後期課程修了見込み証明書を必要とする者は、所定の交付願に提出先・使用目的等を明記し、受領を希望する日の２週間前までに、箕面事務部へ申し込むこと。

⑷ 健康診断証明書

就職その他の理由によりこれを必要とする者には、その年度に行われる本学の定期健康診断受検者に限り、キャンパスライフ健康支援センターが発行する。

２．休学・復学・退学・留学の願出について

休学・復学・退学・留学を願い出ようとする者は、必ず事前（原則として１か月前）に、理由を具し、所定の様式により箕面事務部を通じて研究科長又は総長に願い出ること。

なお、病気の理由による休学・復学・退学の場合は医師の診断書を添付し、留学の場合は、「留学希望期間中、留学先大学に在学し、研究する」という証明になるものを添付すること。

３．住所、姓名、保護者(保証人)住所の変更届について

住所、保護者(保証人)住所の変更が生じたときは、KOAN にアクセスし、新住所を入力すること。

姓名の変更が生じたときは、速やかに所定の様式により箕面事務部を通じて研究科長に届け出ること。

４．就職に関する届出について

修了予定年次の学生は、進路・就職の報告をＷＥＢ上から必ず行うこと。
https://cs-web.osaka-u.ac.jp/report/#/

５．その他の提出書類について

その他の提出書類に関しては、掲示に従うこと。

日本学専攻（応用日本学コース）　研究指導／授業担当教員

専攻	教授	准教授	講師	助教
日本学専攻 （応用日本学コース）	今井　忍 岩井　茂樹 岩井　康雄 加藤　均 岸田　泰浩 五之治　昌比呂 小森　万里 荘司　育子 筒井　佐代 中田　一志	櫻井　千穂 佐野　方郁 柴田　芳成 髙井　美穂 永原　順子 松村　薫子 水野　亜紀子 村田　真実 山泉　実 山川　太	儀利古　幹雄 鴻野　知暁 立川　真紀絵	

学術交流協定に基づく外国の大学への留学について

人文学研究科は以下の海外の大学との間で、学生交流の覚書を締結し、相互に学生の派遣と受け入れを行う協定を結んでいます。（外国学専攻又は日本学専攻(応用日本学コース)教員がコンタクトパーソンをしている大学）※網かけが日本学専攻(応用日本学コース)の協定校

北京語言大学	中国	ジャワールハルラール・ネルー大学	インド
上海外国語大学	中国	ティラク・マハーラーシュトラ大学	インド
大連理工大学	中国	デリー大学	インド
西北大学	中国	カイロ大学	エジプト
国立台湾師範大学	台湾	アスワン大学	エジプト
ウダヤナ大学	インドネシア	エジプト日本科学技術大学	エジプト
アンダラス大学	インドネシア	ウラル連邦大学	ロシア
アル・ラニーリ国立イスラーム大学	インドネシア	モスクワ言語大学	ロシア
コーンケーン大学	タイ	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学	ウクライナ
シラパコーン大学	タイ	カーロリ・ガシュパールカルビン派大学	ハンガリー
チュラローンコーン大学	タイ	セゲド大学	ハンガリー
ランシット大学	タイ	ハイデルベルク大学	ドイツ
マヒドン大学	タイ	フランクフルト応用科学大学	ドイツ
カセサート大学	タイ	ベルゲン大学	ノルウェー
ハノイ大学	ベトナム	プラハ・カレル大学	チェコ
ハロン大学	ベトナム	ヴェネツィア・カフォスカリ大学	イタリア
ホアセン大学	ベトナム	ミラノ大学	イタリア
ホーンバーン国際大学	ベトナム	フルミネンセ連邦大学	ブラジル
ハノイ師範大学	ベトナム	ストックホルム大学	スウェーデン
ホーチミン市師範大学	ベトナム	ルンド大学	スウェーデン
マンダレー大学	ミャンマー	ウェリントン・ヴィクトリア大学	ニュージーランド
ヤンゴン外国語大学	ミャンマー	サマルカンド国立大学	ウズベキスタン

※その他、大学間交流協定校149校あり

1 学生の派遣期間は原則として１年以内です。

2 派遣された大学での授業料は免除されます。

3 派遣された大学で修得した単位は審査の上、履修要項にあるとおり定められた範囲内で本研究科で修得した単位として認定されます。

4 派遣希望者の選考は本研究科で行い、最終決定は派遣先の大学が行います。

5 派遣人数など詳細については箕面事務部教務係に問い合わせてください。